高安詰所だより

第７号
立教１８５年
７月２０日

７月９日　高安直轄団参

いよいよ仕切りのとき

「教祖お入り込み百四十周年」記念期間も今月二十五日をもって終了する。三年に及んだコロナ禍からの開放感もあってか、六月十八日の当日には、一千数百名もの高安の教信者がおぢばに集結し、揃ってご存命の教祖に百四十年目のお礼を申し上げた。

何年ぶりだろうか、人、人、人で埋め尽くされた西礼拝場は圧巻だった。教祖殿北庭でのひのきしんも、梅雨の最中にもかかわらず、雨に打たれることもなく、かといって蒸し暑くもなく、勿体ないような爽やかなお日和の下で、賑やか和やかに草引きをさせて頂いた。

期間中の今も尚、一日も欠けることなく団参ラッシュが続いているが、おぢばがえりができていない教会も未だあるので、「全教会からの別席団参」というお打ち出しに何とか応えさせて頂いて、迎える「教祖百四十年祭」三年千日の年祭活動には、高安の理に繋がる全ての教会が足並みを揃えてスタートを切りたい。

詰所行事予定（八月）

四日　詰所常会

七日　おぢば伏せ込みひのきしん

八日　にをいがけ実動

十一日　勤務者修練Ⅰ

十三日　おつとめ勉強会

十七日　直轄祭参拝（大教会）

二十日　勤務者修練Ⅱ

二十三日　大教会月次祭参拝

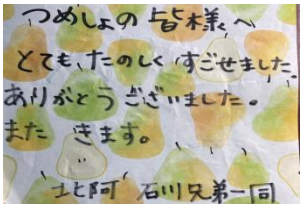
二十五日　月例朝礼

二十六日　本部月次祭参拝者受入れ

詰所の動き

若人の集い　（六月二十五日）

婦人会、青年会、少年会、学生担当委員会共催の「若人の集い」が、詰所を会場に開催されました。初開催でしたが、お入り込み団参に賑わう詰所に大勢の若者達が集まり、駐車場には臨時「**カフェ**」がオープン。模擬店テントも軒を連ね、子供達も大喜び。六階講堂での「**交流タイム**」も大いに盛り上がり、ゆったりと大人の時間を楽しまれていました。予想を越える大盛況ぶりで、参加者からは「メッチャ楽しかった。この次はいつ？今度は友達つれて絶対参加するからね」という嬉しい声が数多く寄せられました。（参加者　九十二名）



別席団参・お礼のおつとめ

「記念期間中、全教会で団参を」とのお打ち出しに、全国から団参が毎日のように到着し、午前十一時半から東礼拝場でつとめられる「お礼のおつとめ」にも連日大勢ご参拝下さっています。

毎日おぢばひのきしん

記念期間中の午前十時から午后二時半まで毎日、おぢば境内地にて除草ひのきしんをさせて頂いています。酷暑の中も厭わず、連日大勢の方がご参加下さり、汗びっしょりになりながらも、楽しそうに雑草を引いて下さっています。

教祖へのお供え物

地元の珍しい特産品などを、お礼の気持ちを込めて教祖にお召し上がり頂こうと、記念期間中に毎日当番制で、全直轄教会からお供え物をお届けしています。真心のこもった品々は、きっと教祖にお喜び頂けているものと思います。

小鼓ライブ（毎月二十六日　正午過ぎ）

詰所では、お帰り下さる信者の皆様に少しでも喜んで頂こうと、ささやかながらも毎月イベントを行っていますが、二十六日の月次祭終了後には、詰所一階ホールの一角で、小鼓のライブ演奏を行っています。演奏して下さっているのは、本部音楽研究会で小鼓講師もおつとめ下さる川島祐介さん（都南・南荏原）です。川島さんは小鼓のプロ奏者として、邦楽の各方面で幅広く活躍しておられますが、若い頃から信仰熱心で、東京の自宅から毎月欠かさずおぢばがえりをされ、おつとめのお道具としての小鼓の普及と指導に励んでおられます。滅多に聞くことのできないプロの生演奏を、詰所で堪能して頂ける「小鼓ライブ」、どうぞ気軽にお楽しみ下さい。

おつとめ勉強会

（七月十三日）

毎月のおつとめまなびの後に、勤務者が交代でお話を取り次がせて頂いていますが、今月は別館女子青年の北井唯さんがつとめてくれました。得意のイラストを駆使し、分かり易くお話ししてくれましたが、「大切な人の、大切なものは、自分にとっても大切なもの。今の自分があるのは、両親の信仰のお陰だから、両親の歩みを私は止めたくはありません。一生を掛けて親孝行し、恩返しをしたい」という力強く真剣な言葉に、一同心を打たれました。

おぢばの蛍

環境保全で河川の浄化が進み、蛍が戻ってきたという話を耳にしますが、なんと、おぢば、それも高安詰所の北を流れる布留川にも蛍が戻っていました。夕づとめの帰りに、ウテント橋のたもとから何気なく川面に目を遣ると、蛍の光が夜目にもくっきりと点滅していました。「こんな所に！」と驚きと感動で、暫し見とれてしまいました。

異動

江本若菜さん

修養科修了後、詰所に残って修養科助手や炊事ひのきしんして下さっていた江本若菜さん（淡路三原・三淡分教会）が、六月二十五日をもって教会に戻られました。二年という短い間でしたが、一生懸命つとめて下さいました。おぢばがえりや大祭月には是非またひのきしんにおかえり下さい。

編集後記

「お入り込み記念期間」が終わると、教祖年祭に向かう三年千日の準備にシフトが切り替わる。こうして一つ、又一つと節を越えていく中に、段々に成人させて頂き、陽気ぐらし世界に近づかせて頂けるのだ。次の塚に向かって、勇んで歩み始めよう。

発　行　天理教高安大教会信者詰所
発行者　芦田孝廣
印　刷　天理市守目堂町二五五番地一